

海辺の館

楽問のススめ



～ 異世界探訪のススめ～



旅を豊かに
してくれるもの

生命の海科学館・竹島水族館・博物館が、『海辺の館のとおつき』と題し、それぞれのたからものをご紹介してまいりました。今号から『海辺の館・楽問のススめ』と題し、海辺の各館が、それぞれの分野で、日常の中で学ぶ楽しみをご紹介します。皆さんの日常に、ほんのちよっぴりでも彩りを添えることができればと思います。

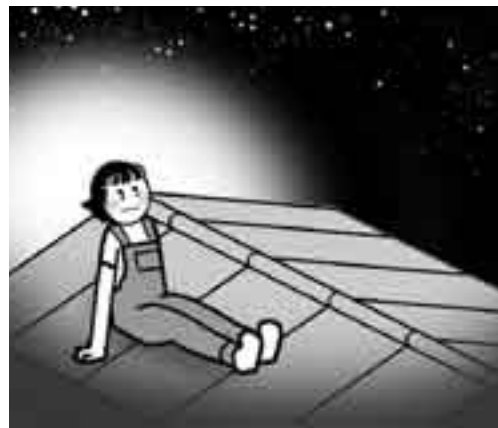
さて今回は、生命の海科学館よりお届けする「異世界探訪のススめ」です。電車や飛行機で出かける普通の旅行に飽きた方、日常に潜む異世界への旅はいかがでしょう。

私は、小学生のとき、いつでも、夏風邪をひいていました。なぜか

というと、当時の私は、屋根の上で星を眺めるのが大好きな子どもだったからです。

夏の夜、星座早見表と懐中電灯をもって、屋根の上に寝そべり、星座をたどりながら星の世界に漕ぎ出すのが、私のひそかな楽しみでした。住宅街の小さな屋根の上では、それほどたくさんの星が見えたわけではありませんが、ちよっぴり冒険しているようなワ

クワク感もあり、直接宇宙とふれあっているような時間が、たまたまなく好きでした。夜更かしがたたって夏風邪をひくという嬉しくないオマケにも懲りず、しょっちゅう内証で屋根に登ったものです。



ただの屋根？
いいえ、実は宇宙への入り口です。

ただ光の点の集積に過ぎない『星空』を、ワクワクしながら見上げる『宇宙』へと変えたのは、図鑑や本などから得た知識であったような気がします。しま模様美しい木星が、いかに巨大な惑星であるか、輪っかがチャームポイントの土星が、どれほど遠いところにあるのか、太古には海が存在し

たといわれる火星が、今どのような惑星なのかを知れば知るほど、その輝きを目に捉えたとき、心が大きく動くのだと思います。



土星とその衛星。
探査機カッシーニが今も活躍中！

ぼんやりかすかな夜空のシミにしか見えない星雲も、それが新しい星を次々と生み出しつつある、美しい天のゆりかごであると知ってはじめて、遠い宇宙に思いをはせる手がかりとして魅力的に見えるようになるように思います。

当時、星空の世界への旅を豊かにしてくれたのは、子どもなりに図鑑や本から手に入れた、宇宙に関するささやかな知識だったのです。